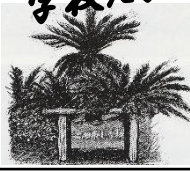


学校だより



「チャレンジ! なかよし! 進んで学ぶ 東の子」

リテツのオ

5月号

令和3年4月30日

横浜市立高田東小学校

一生懸命「聞く」「聴く」「訊く」

校長 小田 和宏

「ちがうかもしれないけど。」「間違えるかもしれないけど。」……「よし、やってみよう!」

外国語・外国語活動の学習で、手を挙げるのを躊躇していた子どもが、意を決したように挙手する場面を見ました。手を挙げた勇気に拍手を贈りたい気持ちになったのと同時に、躊躇した気持ちもよく分かるなあと思いました。

「間違った言い方をしたら、どうしよう…。笑われるかもしれない…。そうしたら嫌だな…。やっぱり(手を挙げるのは)やめておこう…。」このように考えてしまうことは、日常生活の中で大人でもあります。

今年度の始業式、子どもたちに「蒔田 晋治」さんが書いた「教室はまちがうところだ」という本をもとに話をしました。『初めからなんでもわかっている人はいません。最初からなんでもうまくできる人もいません。まちがえたり、失敗したりすることは、だれにでもあることです。教室の一人ひとりが、一生懸命考えて、あーじゃないか、こーじゃないかと自分の考えを思い切って口に出して、みんな考えていくのが、勉強だと思います。』と話しました。

英語に関する著書が多くある鳥飼 玖美子さんの本に、次のような内容が書かれていました。『英語の授業で日本人の生徒や学生がよくやるのが、先生の言うことが分からない時に、隣の席に座っている友だちに聞くことです。

「ねえ、先生、今、何て言った?」 「分かんない、何て言ったんだろうね。」

このような状況を見たネイティブ・スピーカーの教員の多くは、「どうして教師の私に質問しないのか?」と思い、こそこそと話をする姿が理解できない行動として映るそうです。

人前で間違えたら恥ずかしいという感情と同じように、「こんなこと訊いたら、どう思われるだろう?」「分からないと言ったら、バカにされそうだな。」といった気持ちをもつこともあると思います。

小学校指導要領解説(外国語活動・外国語編)には、次のような文章があります。

『相手の発する外国語を注意深く聞いて何とか相手の思いを理解しようとしたり、もっている知識などを総動員して相手に外国語で自分の思いを何とか伝えようとしたりする体験を通して…。』

「注意深く聞いて、何とか理解しようとする。」、外国語の学習に限らず大切なことだと思います。

コミュニケーションでは、「何のために」「どのような場で」「誰と」話しているのかが大きな要素になります。スピーチやプレゼンテーションと違い、そこには「やりとり」が生まれます。中学年の外国語活動の目標として「聞くこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」と3領域を設定していることから、そのスキルに違いがあることがうかがえます。

理解しようとしてしっかり「聞く」、分からなければ「訊く」、耳だけでなく目で心で十分に「聴く」、そして「間違えたこと、分からないことをバカにしない」、これらを学校全体で大切にしたいと思います。

5月の生活目標

時間を守って行動しよう



5月の保健目標

けがを防ごう

1年生を迎える会

15日(木)に、1年生を迎える会が行われました。今年度は、体育館に全校で集まって会を行うことはできなかったため、テレビ放送で行いました。6年生は1年生が入学してくるのを心待ちにしており、このような状況の中でも1年生に喜んでもらえる企画を考えようと5年生の頃から準備に取り掛かってきました。学校のいろいろな場所の紹介動画を作る中で、1年生に分かってもらえるようにはどうしたら良いのかを考え、話すスピードや映像のスピードはゆっくりと、字幕はひらがなで表示するなど工夫を凝らしました。

この会を終えて、1年生もすっかり高田東小学校の仲間入りです。登校班では、上級生が1年生の歩くスピードに合わせて歩いて、1年生を気遣いながら登校してくる様子が見られます。なかよし学年でもある6年生は、ゴールデンウィーク明けから1年生の掃除をお手伝いしに行きます。これは「してあげる」のではなく、1年生が一人でやり、困ったときに手助けするような意識で取り組んでいきたいと思えます。1年生はこの会を終えて、ますます意欲的に学校生活を送っています。



R2年度の児童運営委員会
昨年度から動画制作をがんばりました！



一年生のみなさん！
ようこそ高田東小学校へ

委員会活動

昨年度から、全学年の集会の企画ができない中、委員会の活動も動画や放送を使って工夫を凝らしたものが増えてきました。また、教員が行っていたものも、「ぼくたちでやります！」と進んで仕事を引き受け、頼もしさも感じています。

給食委員会は、毎日職員で放送していた「ぱくぱくだより」を分担して読むことにしました。事前に原稿を何度も読んで練習してから放送します。緊張しながらも読み終わると、職員室の先生方から大きな拍手をもらい、恥ずかしそうにしながらも達成感でいっぱいの表情を浮かべています。



今日のぱくぱく便りをお伝えします！



給食の準備もばっちりです！

入学から1カ月が経ちました。例年1年生の給食の準備は時間がかかると予想し、予めたっぷり時間を取るのですが、1週間経った頃から給食当番の白衣の着替えもどんどんスムーズになり、あっという間に給食を取りに教室を出発することができます。おかずをおぼんに置いてもらう度に、「ありがとうございます。」と元気に挨拶をする1年生に配膳している大人の方が元気をもらっています。

給食が始まってからの3週間は、学校・地域コーディネーターの方に募集をしてもらい、保護者のボランティアの方に配膳を手伝っていただきました。この状況ですが、多くの方とのかかわりがもてることは、子どもたちにとっても大切な機会であると感じます。お忙しい中、ご協力いただきありがとうございます。



登校班指導

新1年生が登校班の仲間入りをする4月の初め、毎年登校班

の安全指導を行っています。例年は、担当の教員が各班の集合場所まで行き、通学路の状況や児童の登校の様子を確認したり地区委員や地域の方々から日頃の様子を伺ったりしていましたが、昨年度から担任はコロナ対応で、毎朝教室で児童の健康観察を行っています。そのため、今年度は担当する教員が確認しに行く日程が集中しないように分散しました。また、地区委員の方や地域の方々との登校班指導については密を避けるために行わず、6年生の登校班リーダー会議を行いました。

会議では、年度初めにあって担当する教員との顔合わせを行い、登校の様子で困っていることや気になることを出してもらいました。リーダーたちは1年生の歩く速さに合わせたり、間隔があかないように待ったりと、安全に気をつけながら登校しています。話を聞くと、「うるさくならないように声をかけているけど、なかなか静かにならなくて。」と困っている様子も感じられました。リーダーの責任を果たそうと、この1カ月とても気を使っていた様子が話から伝わってきます。リーダーだけに任せず、班全体で安全な登校ができるよう、全クラスでも話しているところです。

今年度も一年間、児童が安全に登下校できるよう指導していきます。保護者・地域の皆様、いつも児童の登下校の見守りをありがとうございます。引き続きよろしくお祈いします。



担当の先生とリーダーで話し合い

たくさん本を読もう！

4月23日の「子ども読書の日」から5月12日までの期間は「子ども読書週間」です。2021年の標語は「いっしょによもう、いっぱいよもう」です。

遠くへ出かける機会も少なく、家にこもりがちの毎日。「あー、どこかへ行きたい！」という気持ちの人も多いと思います。そんな時こそ、子どもも大人も、本や絵本を手にとって読書を楽しんでみませんか。本の中でなら遠い外国だって、宇宙にだって、さらに過去や未来にだって自由自在に行けてしまいます。ワクワクする世界が待っていますよ！

図書室では4月26日から貸出が始まりました。一人3冊2週間借りることができます。ぜひ読書を楽しんでください。

